

令和 5 年 5 月 27 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00351

研究課題名（和文）近世学芸史上における復古的潮流の研究

研究課題名（英文）Research on the academic and artistic restoration trends of the late Edo period

研究代表者

一戸 渉 (Ichinohe, Wataru)

慶應義塾大学・斯道文庫（三田）・教授

研究者番号：20597736

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は近世期の復古的潮流について、学問と芸術的实践とを包括的に指し示す「学芸」の観点から検討を加えたものである。本研究を通じて、18世紀後半の国学者・好古家である橋本経亮の旧蔵資料1200点の総体を初めて明らかにし、また目録及び展示図録を刊行した。また近世を代表する国学者である契沖の遺著を伝える「契沖著述稿本類」（重要文化財）の調査研究を行い、契沖自筆稿本の断簡をあらたに発見した。更に灘の豪商であった吉田家の好古活動に関する検討を行い、国立歴史民俗博物館での企画展に協力した。このように本研究は、自国のいにしえへに向けられた日本人の関心の多様なありようを、資料に基づいて実証的に解明してきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、近世日本の復古的潮流について考察する上で必要な基礎的資料の整備を大きく進めた。例えば本研究が取り上げた橋本経亮の旧蔵資料には中国で失われた佚存書『文館詞林』や東寺伝来資料など、代表者の専門分野である近世日本文学のみならず、幅広い学術領域に関わる資料が含まれており、またそのいずれもが新出資料である点に学術的意義を有する。自国の過去の歴史や文化に近世期の日本人がどのように向き合っていたのかを考究する本研究は、本邦における人文学の歴史を捉えなおそうとする試みでもあり、その意義を絶えず問われ続けている今日の人文学全般にとって、ひとつのモデルケースを提示するものともなると考える。

研究成果の概要（英文）：This study examines the restoration trend during the Edo period based on the mutual influence of scholarship and art. The first result of this study is the initial identification of the entire collection of 1,200 items left by Hashimoto Tsunesuke, a scholar and antiquarian from the late Edo period. The findings were published in a catalog and exhibition catalogue. The second accomplishment was the discovery of new autograph materials through research into the manuscripts of the national scholar Keichu, which have been designated as important cultural properties by the Japanese government. The third achievement was the clarification of the antiquities collecting activities of the Yoshida family, a wealthy merchant in Nada. In this regard, I collaborated in planning an exhibition at the National Museum of Japanese History. Through these efforts, this research has shed light on the diverse interests of the Japanese people in the Edo period with regard to their own country's past.

研究分野：日本近世文学

キーワード：国学 好古 松平定信 橋本経亮 藤貞幹 契沖

1. 研究開始当初の背景

18世紀中葉から19世紀初頭にかけての本邦は学芸史上の転換点にあたる。この時期に賀茂真淵や本居宣長らが活動していることに加え、光格天皇を頂点とする朝廷がみずからの権威保持を目的として実施した朝儀祭祀の再興や、王朝期の様式に基づく寛政度内裏造営などの復古の実践は同時代の社会や文化・学問へと様々な余波をもたらし、いにしへの自国の制度や文物に対する関心が広く高揚しつつあった。当該時期のこうした復古的潮流は政治のみならず文化の領域にも属する問題であることから、歴史学及び文学研究の領域において研究が進められつつある。とはいえ、未検討の部分も大きく、現状ではその総体を掴むことは難しい。

本研究は、上記のような背景に基づき、近世期における復古的潮流が、和漢の学問及び詩歌文章の創作や書画の制作をはじめとする芸術的表現行為、すなわち学芸の領域といかなる関係を取り結んでいたのか、そしてそれはどういった人物によって担われていたのかを、多面的に問おうとするものである。

2. 研究の目的

本研究では以下の課題を設定し、その解決を目的とした。

幕府および武家における学芸上の実践の実態解明

当該時期の朝廷と幕府の双方に認められる好古・尚古をめぐる諸活動について、とくに寛政期前後の幕府及び武家による一種の尚古思想の拡がり、それによって惹起された文化事業のいくつかについて、キーパーソンである松平定信、およびその周辺の幕臣層の好古家や文人大名たちの学芸上の動向の把握を通じて検討を行う。

和学者・有職家の復古をめぐる活動実態の把握

朝廷機構の末端にあり、自己の学識に基づいて朝儀祭祀の復古の営為を下支えしていた藤貞幹や橋本経亮などの和学者や有職家たちが、具体的にどのように当時の復古的潮流に棹さし、貢献を果たしたのかの事例研究と関連資料の整備を行う。

復古的潮流のなかの書と書物

近世後期の復古的潮流の中で数多生み出された好古図譜類の資料発掘を行うとともに、とくに書の領域で復古的な調度品の制作に関わった大師流書道継承者の動向を把握することで、この時期の好古の文化史の実像を捉えることを目指す。

3. 研究の方法

課題 において中心となるのは松平定信の学芸上の業績の把握である。そのため、とくに研究が手薄な定信の歌文資料及び古典の筆写本、定信蒐集の古典籍類の調査を重点的に実施し、定信の学芸上の活動実態を明らかにする。また関連して、定信の老中就任中の寛政3年(1791)8月15日に開催された「良夜」題での柳亭詩歌献上に関して、当該催事に関する諸伝本の悉皆調査と、儀礼面の整備に關与した書道師範森尹祥の諸動向の検討を通じて、実態解明を進める。

課題 においては、近世和学関係資料の調査と収集を実施する。重点的に取り上げる対象は藤貞幹(1732~1797)と橋本経亮(1759~1805)である。この両者はともに朝廷周辺にあり、実際の復古的事業に關与しつつも、江戸の武家や好古家などと幅広い交友関係を持ち、課題 で検討する松平定信とも接点を持っていたと目される学芸史上の重要人物である。両者の旧蔵資料を中心に調査研究を推進し、その活動を近世期の学芸史上に位置づける。

課題 では、近世後期に作製された好古図譜のうち、写本で広く流布したものの伝本調査を実施し、それらの好古図譜の作製や書写に關与した好古家の伝記研究を行う。また近世書道と復古

の関わりについて、大師流と呼ばれる書流を中心に関連資料の調査・研究を行う。

4. 研究成果

課題 に関しては、「みやびといましめ一定信の文雅を読み解くために」(『なごみ』474号、2019)において、キーパーソンである松平定信の文雅に対する意識について総論的に論じた。また、「將軍への詩歌献上 寛政三年中秋良夜詩歌をめぐって」(花鳥社より2023年6月刊行のタイトル未定論集に収録予定)にて、定信の老中就任中の寛政3年(1791)8月15日に開催された「良夜」題での柳営詩歌献上の儀の実態を、諸伝本及び関係記録の調査に基づいて解明し、この催しが当時の近世社会に与えた余波について論じた。

課題 に関しては、『橋本経亮旧蔵 香果遺珍目録』(慶應義塾大学三田メディアセンター、2021)を刊行した。同書は慶應義塾図書館が所蔵する橋本経亮の旧蔵書約1200点の書誌情報を著録し、また主要な資料について解題を行ったものである。また関連して2021年10月に慶應義塾図書館の展示企画として、丸善・丸の内本店4階ギャラリーにおいて橋本経亮の旧蔵資料を中心とした展覧会を開催し、アウトリーチ活動も行った。併せて図録『蒐められた古 江戸の日本学』を刊行し、経亮の諸活動を同時代的な潮流の中に位置付けた。さらに矢島明希子との共著論文「香果遺珍本『文館詞林』解題と影印」(『斯道文庫論集』第56輯、2022)では、経亮の旧蔵資料である香果遺珍に含まれていた唐代成立の佚存書『文館詞林』の新出摸写本を紹介し、そこに馬融「上林頌」の一部など従来未知の佚文が含まれていることを考証し、また経亮が当該摸本を作成した経緯について跡づけた。加えて、慶應義塾大学論語疏研究会編『慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究』(勉誠出版、2021)に掲載した「橋本経亮編『遠年紙譜』所収「皇侃義疏料紙」について」及び「『論語疏』の紙片と香果遺珍」(『三色旗』884合、2022)は、経亮編『遠年紙譜』に、伝世最古とされる慶應義塾図書館蔵『論語疏』巻六零巻の一部と見られる紙片が貼られるに至った経緯について論じたものである。橋本経亮の事跡については、「上田秋成と橋本経亮」(『アナホリッシュ国文学』第10号、2021)にて上田秋成との関係について論じ、経亮の秋成への入門時期を天明7年末以前であることを香果遺珍中の資料に即して確定させた。藤貞幹に関しては「「炎上」する江戸の言説空間

宣長・秋成と藤貞幹の「偽書」」(『ユリイカ』52巻15号、2020)において、貞幹と本居宣長との論争が惹起されるに至った経緯について、京都の有職家である高橋家などの関与があったことなどを指摘し、貞幹の存在を同時代的な文脈で捉え返した。

課題 に関しては、国立歴史民俗博物館において2023年3月より開催された企画展示「いにしえが、好きっ！ 近世好古図録の文化誌」に協力し、灘の豪商であった吉田家を対象に近世期の好古家の実態把握を行うとともに、近世最大規模の好古図譜『聆涛閣集古帖』の成立過程について跡付け、その成果を当該展示の図録『いにしえが、好きっ！ 近世好古図録の文化誌』(国立歴史民俗博物館、2023)のコラム及び展示解説の形で公表した。また書道関係では、前掲「將軍への詩歌献上 寛政三年中秋良夜詩歌をめぐって」において、上記した詩歌献上の際の懐紙書法をめぐって大師流と持明院流の書流上の対立が生じていた事実を指摘した。

また課題全体に関わるものとしては、ロバート キャンベル監修『近世文学史研究三 十九世紀の文学』(ペリかん社、2019)所収「復古というモード 和学から国学へ」および國學院大学日本文化研究所編『歴史で読む国学』(ペリかん社、2022)第五章「安永・天明期 多様化する国学」及び第六章「寛政期 復古の諸相」がある。これらの論考において、18世紀後半以降の国学史を通史的に叙述し、当該時期の幕府や朝廷及びその周辺の知識人層の復古志向の腑分けを行った。更に『斯道文庫論集』57輯に掲載した「圓珠庵寄託契沖著述稿本類等目録」及び「契沖

自筆『厚顔抄』『古今余材抄』新出断簡について 附『〔住友周富十七回忌追悼歌集〕』翻印」
では、重要文化財「契冲著述稿本類」を含む圓珠庵所蔵資料を目録化し、新出の契冲自筆断簡を
紹介し、併せて豪商住友家の四代友芳の三男である入江友俊が挙行した歌会記録を紹介した。く
わえて「稲荷社祀官大西親盛の和歌 続々—京都学・歴彩館蔵『歌日記』』翻印と解題（一）・（二）」
（『斯道文庫論集』54・55 輯、2020・2021）で、荷田春満の門弟で冷泉家の歌道門人であった
稲荷社祀官の大西親盛の和歌資料の全文を翻字し、当該資料に見える人物について考証を加え
ることで近世中期の和歌史上の諸動向を跡付けた。

本研究課題に関係して出張調査を実施したのは東丸神社（京都府京都市）、新村出記念財団重
山文庫（京都府京都市）、大谷大学博物館（京都府京都市）、大阪府立中之島図書館（大阪府大阪
市）、中津市歴史博物館（大分県中津市）、三郷町立図書館（奈良県生駒郡三郷町）、九州大学附
属図書館（福岡県福岡市）などである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 57
2. 論文標題 圓珠庵寄託契沖著述稿本類等目録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 477-500
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 57
2. 論文標題 契沖自筆『厚顔抄』『古今余材抄』新出断簡について 附『住友周富十七回忌追悼歌集』翻印	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 281-296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 844
2. 論文標題 『論語疏』の紙片と香果遺珍	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 三色旗（慶應義塾大学出版会）	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉，矢島明希子	4. 巻 56
2. 論文標題 香果遺珍本『文館詞林』解題と影印	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 351-446
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 10
2. 論文標題 上田秋成と橋本経亮	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アナホリッシュ国文学（響文社）	6. 最初と最後の頁 114-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 55
2. 論文標題 稲荷社祀官大西親盛の和歌 続々－京都学・歴彩館蔵『〔歌日記〕』翻印と解題（2）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 119-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 52-15（767）
2. 論文標題 「炎上」する江戸の言説空間 宣長・秋成と藤貞幹の「偽書」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ユリイカ（青土社）	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 474
2. 論文標題 みやびといましめ一定信の文雅を読み解くために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 なごみ	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 一戸渉	4. 巻 54
2. 論文標題 稲荷社祀官大西親盛の和歌 続 : 京都学・歴史館蔵『歌日記』翻印と解題(一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 斯道文庫論集	6. 最初と最後の頁 19-55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 一戸渉
2. 発表標題 『聆涛閣集古帖』と近世好古家の世界
3. 学会等名 第443回 歴博講演会(国立歴史民俗博物館)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 一戸渉
2. 発表標題 寛政九年十一月二十七日付蒔田必器宛橋本経亮書状について
3. 学会等名 第34回鈴屋学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一戸渉
2. 発表標題 刊本『聆涛閣帖』小考
3. 学会等名 共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」第8回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 一戸渉
2. 発表標題 吉田家三代と学芸活動
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館 共同研究「『聆濤閣集古帖』の総合資料学研究」報告会「住吉の豪商・吉田家のお宝 まぼろしの聆濤閣コレクション」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 国立歴史民俗博物館	4. 発行年 2023年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 254
3. 書名 いにしえが、好きっ！ 近世好古図録の文化誌	

1. 著者名 國學院大學日本文化研究所	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 272
3. 書名 歴史で読む国学	

1. 著者名 慶應義塾大学論語疏研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	

1. 著者名 一戸 渉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾図書館	5. 総ページ数 122
3. 書名 蒐められた古 : 江戸の日本学	

1. 著者名 一戸 渉	4. 発行年 2021年
2. 出版社 慶應義塾大学三田メディアセンター	5. 総ページ数 207
3. 書名 橋本経亮旧蔵 香果遺珍目録	

1. 著者名 ロバート キャンベル監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ペリカン社	5. 総ページ数 152
3. 書名 近世文学史研究三 十九世紀の文学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------